

平成26年12月19日

産業厚生委員会

阿久根市議会

1. 日 時 平成26年12月19日(金) 午前10時00分開会
午前10時41分閉会

2. 場 所 第2委員会室

3. 出席委員 野畑直委員長、松元薫久副委員長、中面幸人委員、
大田重男委員、濱崎國治委員、石澤正彰委員
竹原恵美委員

4. 欠席委員 鳥飼光明委員

5. 事務局職員 議事係 寺地 英兼

6. 会議に付した事件

・ 陳情第15号 「JA自己改革」に関する陳情書

7. 議事の経過概要

別紙のとおり

審査の経過概要

産業厚生委員長(野畑直委員)

ただいまから産業厚生委員会を開会します。

本日は、さきの定例会で継続審査となりました、陳情15号「JA自己改革」に関する陳情書についてを議題とし、本陳情の今後の審査方法についてお諮りするものであります。陳情者を呼ぶことも含め、各委員の意見を伺いたいと思います。

休憩に入ります。

(休憩 10:01 ~ 10:16)

産業厚生委員長(野畑直委員)

休憩前に引き続き委員会を再開します。委員の御意見を伺いたいと思います。

濱崎國治委員

この陳情はJA全体の改革に関連することの関係で、この陳情者を地元の陳情した方を呼んで審議してもですね、ちょっと的確な私どもの方針、私たちの方針を決定するのに対する意見が出てくるかというのは非常に疑問です。そういうことで、大きな問題でもありますので、一応委員全体がまたいろいろ勉強もしてもらってするために、継続して今後十分審査したいということではいかかでしょうか。

〔「異議なし」と発言する者あり〕

産業厚生委員長(野畑直委員)

ほかに意見はありませんか。

〔「なし」と発言する者あり〕

竹原恵美委員

資料も集めていただいて現状のとおりなんですけど、延ばしてもそんなに変化はないのではないかと思います。それぞれの討議、討論を重ねて表決に向かってもよいのではないかと思います。

産業厚生委員長(野畑直委員)

今、竹原委員のほうから、採決に向かった討論をすべきではないかという意見もありますけれども、きょう意見を出し合うのか、それとも、先ほど濱崎委員からあったように、もう少し状況を調査してから結論を出していこうかという考え方になると思うんですが、また次回委員会を開催するという形でいくか、そこについて諮りたいと思いますけれども、また次回、陳情者を呼ぶことは必要なしとして次回委員会で審査後表決をするという、

〔「さらに審査を続けるということで、継続をすることでいいんじゃないですか」と発言する者あり〕

〔複数人発言する者あり〕

休憩に入ります。

(休憩 10:19 ~ 10:21)

産業厚生委員長（野畑直委員）

休憩前に引き続き委員会を再開します。

ご意見を伺います

石澤正彰委員

さきほど濱崎委員からお話があったようにですね、きょうのところはもう一度資料をもう1回持ち帰って、しっかり自分たちも勉強しなおしてですね、次回にどうするかということを決めたほうがいいんじゃないかと思います。

産業厚生委員長（野畑直委員）

それでは、この陳情第15号については、継続審査とすることによろしいでしょうか。

[「はい」と発言する者あり]

次にお諮りいたします。次回委員会の日程調整につきましては、委員長に一任願いたいと思いますがこれに御異議ありませんか。

[「異議なし」と発言する者あり]

御異議なしと認め、そのように決しました。

ほかに皆さんから何かありませんか。

[「なし」と発言する者あり]

それでは、私のほうから陳情第13号の手話言語法制定を求める意見書の提出について、議長のほうから阿久根市に住んでいる方から意見書の提出をしてもらいたいというような話があったようです。皆さん方のほうにその陳情の趣旨について配布してありますけれども、この件について産業厚生委員会で対応をして、そして、3月議会でその意見書を提出ということになれば、そのようにしたいということについて皆さんの意見を伺いたいと思います。

濱崎國治委員

この13号について、先ほど地元の方がという話がありましたが、文書でそういうのが出ないんですか。

産業厚生委員長（野畑直委員）

この市外からの陳情でありまして、普通は配布でとどめておりますけれども、この件については特に阿久根市に住んでいる方から議長のほうに懇願があったと、意見書をできれば出してもらいたいということで特別その文書での提出はなかったということだそうです。

濱崎國治委員

そういう議長宛て、口頭であったということですので、文章ですよ、しないと、これまで市外の分については、文書配布だけでとどめているのを、じゃ、これは特別にということがあればですね、今後、陳情が出された場合すべて、これは特別だから、これは特別でないと判断をせないかんということになりますので、これまで阿久根市議会は地元の陳情者の分しか委員会で調査していない、審議してないというのもありますので、議長にそういうのがあったら、ぜひですね、文章を添えてですよ、これに地元のそういう方の添えてしてもらったほうがいいんじゃないですかね。

産業厚生委員長（野畑直委員）

わかりました。ちょっと休憩に入ります。

(休憩 10:26 ~ 10:41)

産業厚生委員長（野畑直委員）

休憩前に引き続き委員会を再開します。

委員の御意見を伺います。

中面幸人委員

きょうの委員会です、提案された陳情書ですので、自分たちもですね、今後こういう人たちのためにやはり考えていかなくてはいけないという思いも、きょうの委員会で感じましたので、また、それぞれこのことについてそれぞれの委員が勉強していただいて、次回また審査をお願いしたいと思います。

産業厚生委員長（野畑直委員）

ほかにありませんか。

濱崎國治委員

私は、このような陳情をですね、例えば、この内容の陳情がどういうことを言っているんじゃないかと、3月議会でどっちもするんだから、議長にそういうお願いがあったら本会議でそういうのを付託してもらってしてもいいのという考えをもっています。ただ、先ほど意見もあったように、市外から来た分について、これについては重要だから委員会発議でしようとか、そういうのとの区別をどうするのか今後課題になってくると思うんですね。だから、これについては、まだ、3月議会で提案してもらって委員会付託してもらって審議しても、時間は一緒になりますからどっちみちですね、意見書を出すというのは、そういうのもあってもいいのかなというのもしたもんですから、だから、今後、そういう方法ですれば議長にお願いして議長から委員会で何とかしてくれんかということであれば、市外からの分についても今後そういう取り扱いをするということになるということのも理解しながら進めんといかんと思いますね。別にこの陳情は、そういうどうこうということじゃなくて、市外からの陳情についての取り扱いについてもそういうことになりますよというのを理解しながら取り組まんといかんのじゃないかなと思います。

中面幸人委員

今、濱崎委員の意見もそのとおりだと思います。ただ自分たちの委員会だけで決定、そういうことをですよ濱崎委員が言われたことを決めるのもあれですから、これは議運でやっぱりもむべき問題でもあるんじゃないかなと思うんですけど。皆さんどう思いますか。産業厚生ばかりではなくてですね、ほかの委員会との兼ね合いも出てくると思いますので、その辺あたりを議運に提案して審議をするということのも大事なかなと思いますけど、皆さんどう思うに思われますか。

大田重男委員

私も中面委員の意見には賛成なんです。今後いろんな市外のやつも出てきます。その中にはさっき松元委員もお話ししましたけど、市外のやつでもやっぱりこれはこっちで取り上げんといかんというやつもあると思うんですよ。だから、その中でやっぱり議会運営委員会でですね、しっかり諮って今までどおり市外だからこれはしないとか、そうじゃなくて議会運営委員会で審議して、例えば、市外のやつも審議すると、そういうふうにしてもらえばいいんじゃないですか。

竹原恵美委員

中面委員と大田委員に賛成なんですけど、今重要だと思う陳情書を市外からいただいた、したら、それを見た委員がこれはするべきだ、逆に自分たちが各自がこれはするべきだという、阿久根市内の陳情者に成りかわる役割を担ってもいいんじゃないか、それをまた議運のほうで話していただきたいと思います。

産業厚生委員長（野畑直委員）

ほかに。よろしいですか。今の意見を踏まえてですね、今回はJAの自己改革の分について

ても継続して審査をするということですので、次回の委員会でもう少し今出た意見を踏まえて、それぞれ調査をしていただいてもう1回次回の委員会で一緒にJAの自己改革と一緒に審査をするということで決定してよろしいでしょうか。

[「異議なし」と発言する者あり]

異議なしと認めます。

ほかに何かありませんか。

[「なし」と発言する者あり]

なければ、以上で産業厚生委員会を散会いたします。

(散会 10:41)

産業厚生委員会委員長